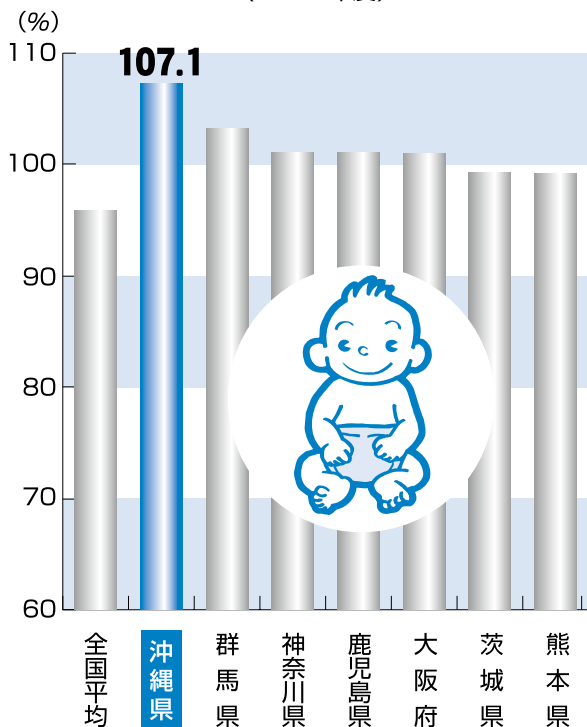


【保育所定員充足率】

保育所定員充足率
(2008年度)



107.1%

保育所定員充足率とは、認可保育所の定員数に対して、何人の児童が在籍しているかを表したものである。

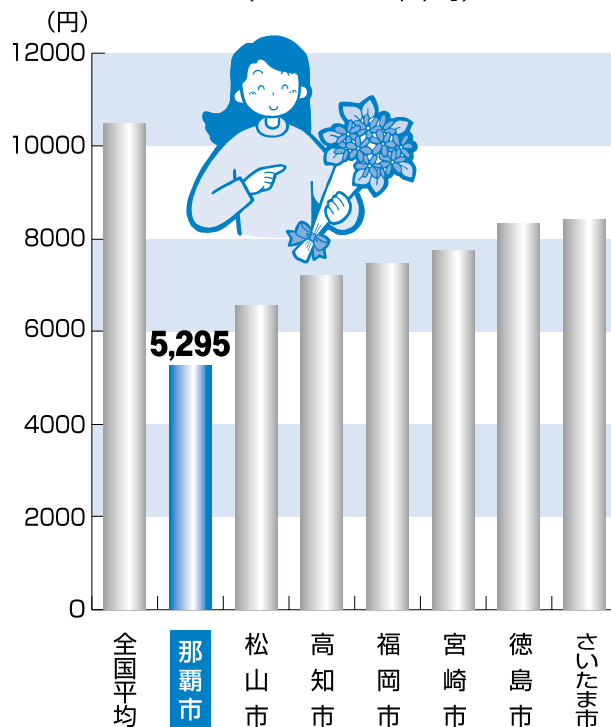
厚生労働省「2008年福祉行政報告例」によると、沖縄県の保育所定員充足率は107.1%で全国一である。全国平均は、95.6%となっている。この要因としては待機児童の問題が考えられる。沖縄県は認可保育所への待機児童率も全国一であるため、保育所の定員数以上に児童を受け入れざるを得ないという現状がある。しかし、これは、保育所利用児童の保育環境悪化を招くことにもつながりかねない。

保育所定員充足率107.1%という数値が、どの程度保育環境の悪化を招いているかは定かではない。定員数というのは合理的に算定された数値であろう。全国的にも子供の多い沖縄だからこそ、早急に保育環境の充実を図ってほしいものだ。

(海邦総研経営企画部／上江洲龍)

【切り花の年間購入額】

切り花の年間購入額
(2007～09年平均)



5295円/世帯

贈り物として喜ばれるものの一つが花だろう。花は生活を潤し、心を癒してくれる。しかし、ウチナーンチュが花を買う機会は全国的にみても少ないようだ。

総務省の「家計調査」によると、那覇市における1世帯あたりの切り花年間購入額は5,295円(平成19～21年平均)。都道府県庁所在市のなかでは最下位で、全国平均10,430円の約半分の水準にすぎない。一方、沖縄県の切り花類年間出荷量は3億6千万本で、愛知県に次ぐ全国第2位の出荷量を誇る。花の一大産地ではあるが、地元消費額は少ないのである。

沖縄の男性は一般的にシャイと言われている。今日は花屋に立ち寄り、大切なあの人に普段なかなか伝えることのできない感謝の気持ちを贈ってみてはどうだろうか。ひまわりのような笑顔が返ってくるかも…。

(海邦総研人材開発部／佐平真紀)

【日帰り温泉】

日帰り温泉(2008年度)



		都道府県	日帰り温泉
温泉の多い県	1位	長野県	758
	2位	鹿児島県	549
	3位	北海道	484
	4位	静岡県	475
温泉の少ない県	44位	高知県	45
	45位	福井県	45
	46位	滋賀県	28
	47位	沖縄県	9

※日帰り温泉:温泉利用の公衆浴場(施設数)

9ヶ所

「沖縄に温泉?」青い空と青い海のイメージが強い沖縄にあって、温泉資源は希少性や意外性という点で、魅力的な集客素材になり得るかもしれない。

環境省「平成20年度温泉利用状況」によると、沖縄県内の温泉利用の公衆浴場は9カ所。全国で最も少ないものの、那覇市内の便利な日帰り温泉、白い砂浜で遊んだあと水着のまま入れるビーチ隣接の温泉、南の島で星空を観賞できる露天温泉など、その魅力は多様だ。

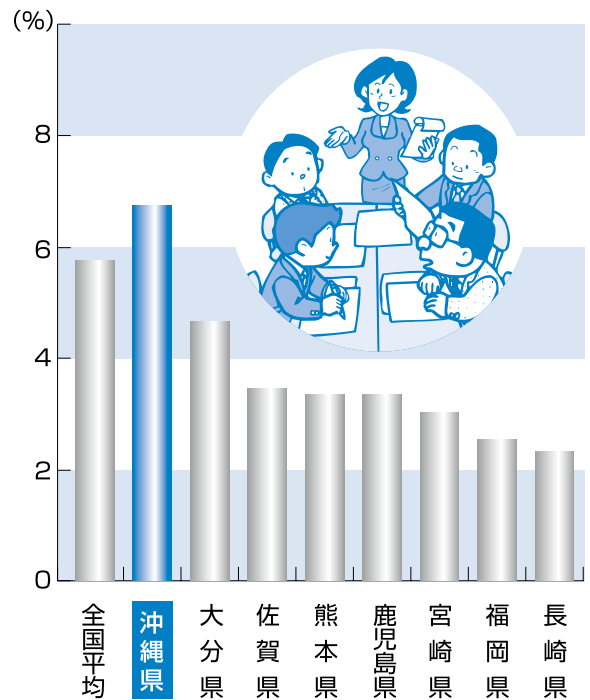
ちなみに、財団法人日本交通公社の「旅行者動向2009」によると、行ってみたい国内旅行タイプのトップは「温泉旅行」と、日本人の温泉好きは、今も昔も変わらない。

台風シーズンの到来。沖縄観光にとって、天候不順の日の楽しみ方の提案は重要な課題だ。折角の旅の思い出を楽しいものとするためにも、「沖縄で日帰り温泉!」、提案してみてもどうだろうか。

(海邦総研経営企画部/大井佐和子)

【女性公務員の管理職登用比率】

女性公務員の管理職登用比率
(九州地区)



6.7%

平成15年の男女共同参画基本計画で「社会のあらゆる分野において、2020年までに、指導的地位に女性が占める割合が、少なくとも30%程度になるよう期待する。」とし、女性の参画を進めている。

内閣府「2010年女性公務員の登用状況」によると、沖縄県における公務員の管理職女性比率は、6.7%。全国では7位、九州地区においては1位という比較的高い割合だ。

政策に国民目線での新しい発想や多様な視点、柔軟性や包容力が求められることから、女性の活躍は、社会的にも求められていると言えるだろう。

戦前、戦中、戦後と多くの苦難を乗り越えてきた沖縄の女性のたくましさや我慢強さ、精神力の強さは、子や孫へ引継がれ、いまでは、芸能界、ゴルフ界等、各界で活躍している。沖縄女性のパワー、実力が公務員職の世界でも発揮されてきたのかもしれない。

(海邦総研会員事業部/照屋昇憲)